

# 教員用

すいがい まも  
水害からいのちを守るために

くしだがわへん  
(櫛田川編)



- ・本書では授業のポイントを記載しています。
- ・授業の進め方は、「学習指導・発問計画」の2・3ページを予めご確認ください。
- ・取り扱うコマ数によって、使用しなくてよいページがございます。各ページ上部に、対象時限を記載しておりますのでご確認ください。
  - 例) 4-1 : 4コマ中の1コマ目で扱うページ
  - 3-1 : 3コマ中の1コマ目で扱うページ
  - 2-1 : 2コマ中の1コマ目で扱うページ

1	わたしたちの <sup>くしだがわ</sup> 櫛田川	1			
	(1) <sup>くしだがわ とく</sup> 櫛田川の特ちょう	1	1	1	1
	(2) <sup>ちけい とく</sup> 地形の特ちょう	3	1	1	1
	(3) <sup>かわ れきし</sup> 川の歴史	5	1		
2	<sup>すいがいじ</sup> 水害時 <sup>きけん</sup> におこる危険	7			
	(1) <sup>い せ わんたいふう</sup> 伊勢湾台風	8	2		
	(2) <sup>すいがいじ</sup> 水害時 <sup>きけん</sup> におこる危険	11	2	1	1
3	<sup>すいがいじ</sup> 水害時にわたしたちがとるべき <sup>こうどう</sup> 行動	20			
	(1) <sup>すいがい</sup> 水害により <sup>み きけん</sup> 身に危険があるとき	20	3	2	2
	(2) <sup>し</sup> 知っておくべきこと	23	3	2	2
4	みんなでき <sup>すいがい</sup> む水害へのそなえ	27			
	(1) <sup>すいがい こま くふう</sup> 水害で困らない工夫	27	4	3	
	(2) <sup>ちいき ひと かぞく たす あ</sup> 地域の人、家族との助け合い	30	4	3	
5	さいごに	32	4	3	2

わたしたちと<sup>まな</sup>いっしょに学んでいきましょう。



先生



しょうた



りか

○ <sup>ほん みかた</sup>この本の見方

このコーナーで  
児童に考えさせながら授業を進めてください



そのページで<sup>まな ことば いみ せつめい</sup>学ぶ言葉の意味を説明しています。

考えてみよう

<sup>かんが</sup>みんなで考えてみましょう。

もっと知ろう

<sup>じゅぎょう まな かんけい と あ</sup>授業で学ぶことに関係することを取り上げて  
います。<sup>じかん</sup>時間があるときに<sup>よ</sup>読んでみましょう。

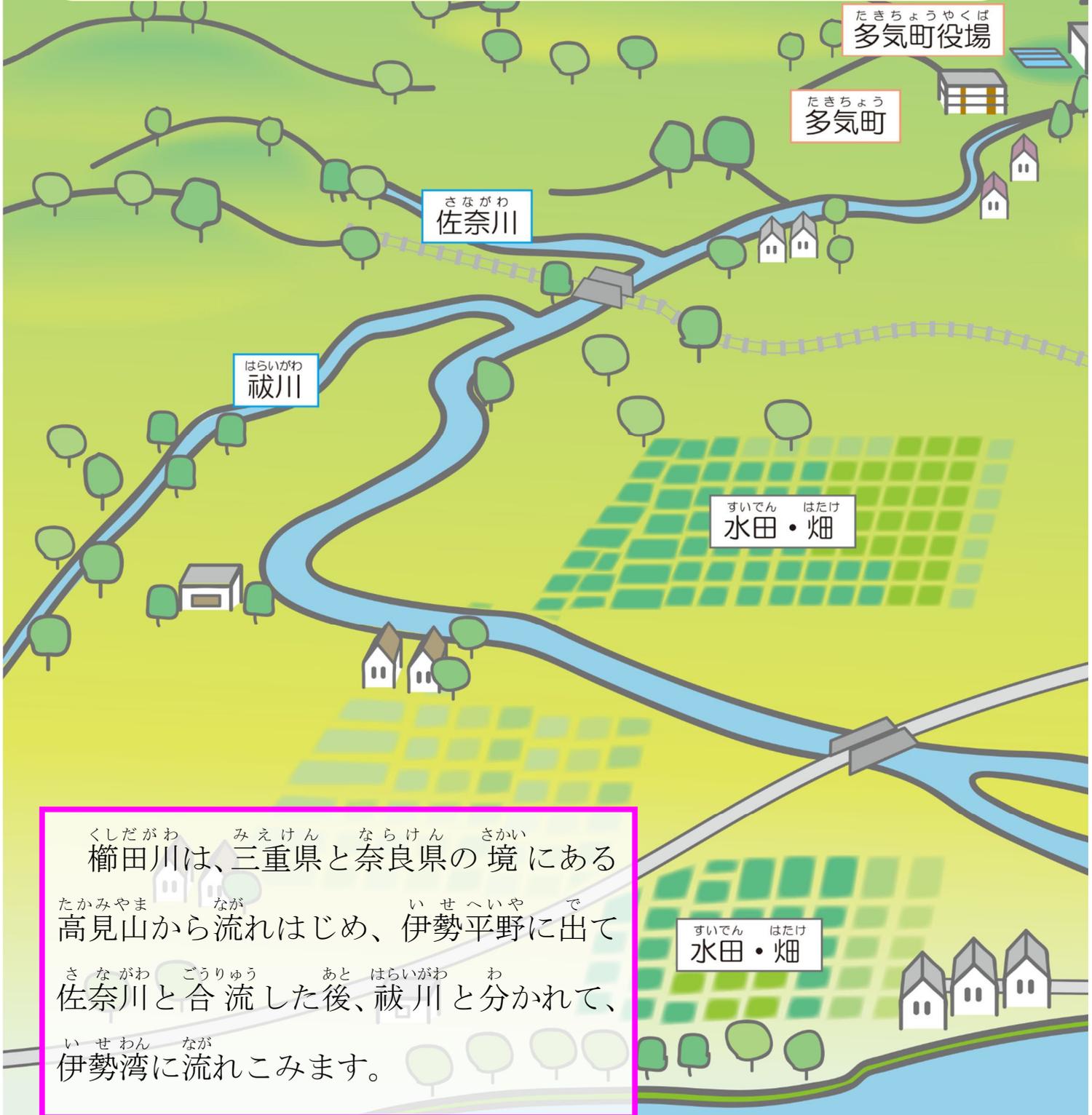
<sup>くしだがわ</sup> <sup>とく</sup>  
(1) 櫛田川の特ちょう

考えてみよう

自分たちのまちに流れる川のことを考える。  
「川を利用している」ことを想像させる。

みなさんは川に<sup>かわ</sup>遊び<sup>あそ</sup>に行ったことはありますか。

川はどのようなことに<sup>りよう</sup>利用されているでしょうか。



<sup>くしだがわ</sup> <sup>みえけん</sup> <sup>ならけん</sup> <sup>さかい</sup>  
櫛田川は、三重県と奈良県の境にある

<sup>たかみやま</sup> <sup>なが</sup> <sup>いせへいや</sup> <sup>で</sup>  
高見山から流れはじめ、伊勢平野に出て

<sup>さながわ</sup> <sup>ごうりゅう</sup> <sup>あと</sup> <sup>はらいがわ</sup> <sup>わ</sup>  
佐奈川と合流した後、祓川と分かれて、

<sup>いせわん</sup> <sup>なが</sup>  
伊勢湾に流れこみます。

言葉をすべて覚える必要はありません。  
山から海へと流れていくことを理解する。

たかみやま  
高見山

はちす  
蓮ダム

たきしょうすいじょう  
多気浄水場

まつさかしやくしょ  
松阪市役所

まつさかし  
松阪市

きんてつやまだせん  
近鉄山田線

こくどう  
国道 23 号

まつさかしょうか  
松阪浄化センター

くしだがわ  
櫛田川

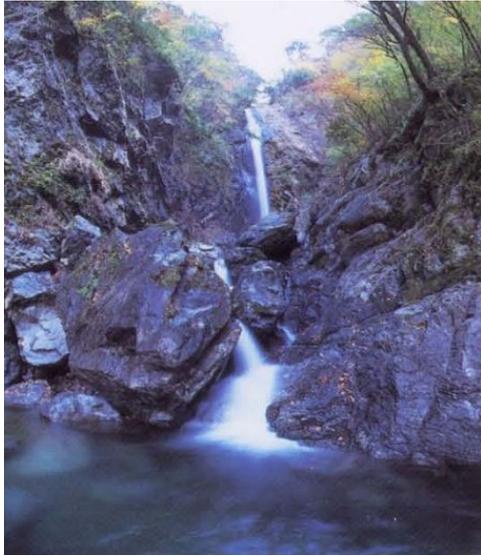
いせわん  
伊勢湾



## (2) ちけい とく地形の特ちょう

くしだがわ櫛田川は、ちけい地形によってさまざまなすがた姿をしています。

い生きものにとっての大切なたいせつすみかであるほか、ひと あつ人が集まる場所として  
りよう利用されています。



たき  
滝



なが流れがはやくあさ浅いところ

さんらんじょう  
(アユの産卵場)



かわ なか はやし とり  
川の中の林 (鳥のすみか)



ひ  
干がた



かわ うみ なか川が海に流れこむ所や、ところ しず静かな  
かいがん こま すな どりな海岸には細かい砂や泥がたくさん  
たまります。しお ひ潮が引いたときにでき  
とおあさ はま ひる遠浅の浜を「干がた」といいます。

くしだがわ  
 榎田川はわたしたちの生活や生き物に豊か  
 な恵みをあたえているね。わたしたちの  
 がっこう いえ ちか  
 学校や家の近くでは、どのような景色がみ  
 られるかな。



アユつり



すいせいせいぶつ ちょうさ  
 水生生物の調査



さ ながわさくら こうえん  
 佐奈川桜つつみ公園



た き じょうすいじょう  
 多気浄水場

多様な流れのおかげで、生きもののすみかや人々の河川利用があること学ぶ。  
 川の「良い面」を伝える。

※以降で水害による被害を伝えます。

川に対して「怖い」印象が残ってしまわないように、川の「良い面」を  
 本ページで必ず伝えてください。

(3) <sup>かわ</sup>川の<sup>れきし</sup>歴史

川が物流の発達に影響を与えていたことを学ぶ。

<sup>なら</sup>奈良時代初期には、<sup>くしだがわ</sup>櫛田川を  
<sup>つか</sup>使って、<sup>ほ</sup>掘り出された<sup>にゆうすいぎん</sup>丹生水銀  
<sup>もくざい</sup>や木材を<sup>ふね</sup>船で<sup>はこ</sup>運ぶなど、<sup>さまざま</sup>様々な  
<sup>りよう</sup>利用が<sup>おこな</sup>行われていました。



<sup>にゆう</sup>丹生の<sup>すいぎんこうざん</sup>水銀鉱山のあと

<sup>りようぐんばし</sup>両郡橋の近くは、<sup>まつさかしやうにん</sup>松阪商人  
<sup>はっしょう</sup>の発祥の地である<sup>いざわしやうにん</sup>射和商人の  
<sup>ふる</sup>古い<sup>まちな</sup>町並みが<sup>のこ</sup>残っており、<sup>せいりゆう</sup>清流  
<sup>ちやうわ</sup>と<sup>どくとく</sup>調和した<sup>ふんいき</sup>独特の<sup>ふんいき</sup>雰囲気をうみ  
だしています。



<sup>いざわしやうにん</sup>射和商人の<sup>ふる</sup>古い<sup>まちな</sup>町並み



<sup>ふね</sup>船を<sup>つか</sup>使ったもの  
を<sup>はこ</sup>運んでいたんだね。

川が水源の確保として人々に多大な恵みを与えていることを学ぶ。



<sup>はちす</sup>蓮ダム

また、<sup>くしだがわ</sup>櫛田川の水は古くから  
<sup>のうぎやうやうすい</sup>農業用水として<sup>りよう</sup>利用され、<sup>すいでん</sup>水田の  
<sup>かいたく</sup>開拓に<sup>おお</sup>大きくかかわってきました。  
<sup>いま</sup>今は、<sup>はちす</sup>蓮ダムの<sup>すいげん</sup>水源として、<sup>なんせい</sup>南勢・  
<sup>しまちいき</sup>志摩地域の<sup>すいどうやうすい</sup>水道用水に<sup>りよう</sup>利用されて  
います。



くしだがわ かりゅう  
櫛田川の下流のようす

一方で氾濫をくりかえしてきたことも学ぶ。

いっぽう あめ おお ちいき なが むかし なんと おおあめ  
一方で、雨が多くふる地域を流れるため、昔から何度も大雨によって  
みず ひがい くしだがわ かりゅう ほう くしだがわ ほんりゅう  
水につかる被害にあってきました。櫛田川の下流の方では、櫛田川の本流  
はらいがわ わ べつべつ い せわん なが むかし はらいがわ  
から祓川が分かれて別々に伊勢湾へと流れていきますが、昔は祓川が  
ほんりゅう いっせつ せんねんまえ おおあめ じしん  
本流であったとされています。一説によると、千年前の大雨や地震によ  
り、今の流れとなったといわれています。

おおあめ ひがい すいでん  
大雨による被害から水田や  
じゅうきよ まも みえけん  
住居を守るために、三重県は  
しょうわ ねん ねん ていぼう  
昭和7年(1932年)から堤防をつ  
くりはじめました。





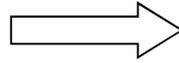
大雨が降ると堤防から水があふれ、命の危険がある。  
8ページ以降の導入として、雨の降る前と降った後の様子を紹介。

くしだがわ おおあめ かわ みず  
櫛田川では、大雨のときに川から水があふれないように  
ていぼう まな  
堤防がつくられたと学びました。

ていぼう みず  
堤防があるところからは、水はあふれてこないのかな？

さながわ ようす  
<佐奈川の様子>

あめ ふ まえ  
雨の降る前



あめ ふ あと  
雨の降った後



よ ぎもん  
良い疑問ですね。

おおあめ くしだがわ じょうりゅう なが たいりょう  
大雨がふると櫛田川の上流から流れてきた大量  
みず ていぼう  
の水が、堤防からあふれてしまうことがあります。

くしだがわ おお すいがい さいきん  
それでは、櫛田川でおこった大きな水害や、最近の  
ひがい  
被害をみてみましょう。



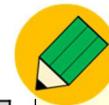
# いせわんたいふう (1) 伊勢湾台風

しょうわ ねん ねん がつ にち はっせい いせわんたいふう たいふうだい ごう  
昭和34年（1959年）9月26日に発生した伊勢湾台風（台風第15号）

ちゅうしんきあつ おおがたいふう どうかいちほう おお  
は、中心気圧が929.6ヘクトパスカルの大型台風で、東海地方に大きな被害をもたらしました。

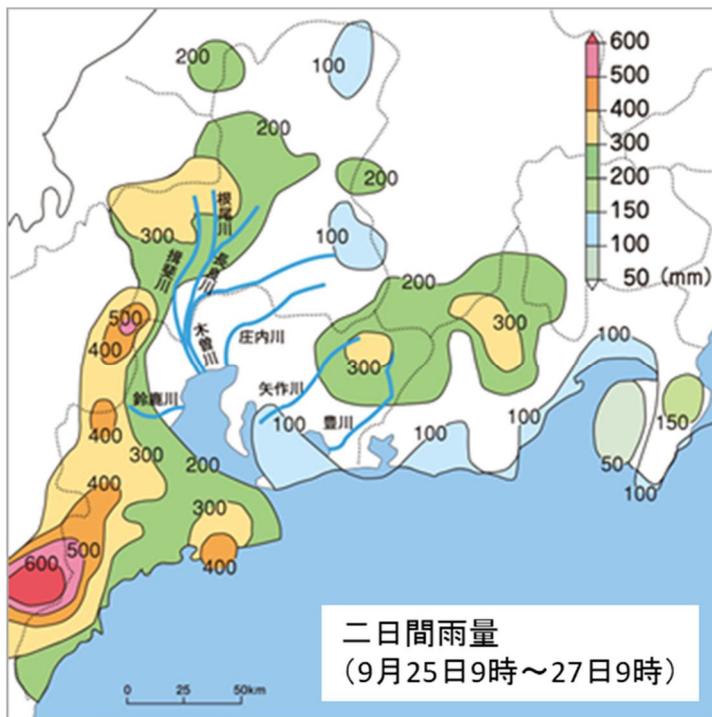
## ちゅうしんきあつ ひく たいふう ねん ねん ■ 中心気圧が低い台風（1951年～2019年）

じゅんい 順位	じょうりくじ きあつ 上陸時の気圧 (ヘクトパスカル)	じょうりにちじ 上陸日時
1	925	1961年9月16日9時すぎ
2	929	1959年9月26日18時ごろ
3	930	1993年9月3日16時前

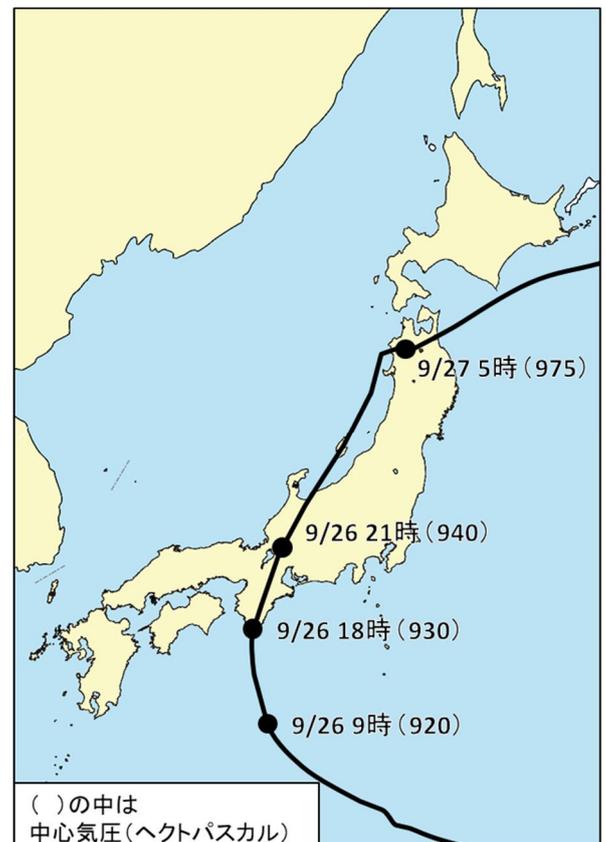


ヘクトパスカル…

たいき あつりよく  
大気（たいき）の圧力（あつりよく）をあらわす  
たんい すうじ ひく  
単位（たんい）です。この数字（すうじ）が低い  
ほど、台風（たいふう）の強さ（つよ）は強（つよ）く  
なります。伊勢湾台風（いせわんたいふう）は、観測  
（かんそく）されている中（なか）で 2番目（ばんめ）に  
ちゅうしんきあつ ひく たいふう  
中心気圧（ちゅうしんきあつ）が低い台風（ひく たいふう）です。



ふつかかん うりょう  
二日間でふった雨量



たいふう とお みち  
台風の通り道

くしだがりゅういき こ たてもの しんすい  
櫛田川流域では、3,814戸の建物が浸水  
しました。なか たてもの ひがい  
中には、建物がこわれる被害も  
おお  
多くみられました。

しゃしん ふね じゆう いどう  
写真からは、船などがないと自由に移動  
できない様子がみてとれます。い せ わんたいふう  
伊勢湾台風  
による被害は、ひがい せいかつ おお えいきょう あた  
生活に大きな影響を与えま  
した。



やま だいち あまみず  
山や大地にふった雨水  
は、ひく なが かわ  
は、低いほうへと流れ、川  
なが  
に流れこみます。このよう  
に、あまみず かわ あつ はん い  
に、雨水が川に集まる範囲  
をその川の「流域」といい  
ます。

くしだがりゅういき  
櫛田川流域とは、その  
はん い あめ くしだがわ  
範囲にふった雨は櫛田川に  
なが  
流れこむという範囲をあら  
わします。



まつさかしいざわちょう ようす  
松阪市射和町の様子

写真を中心に伊勢湾台風による被害を知り、水害で生活に影響を及ぼすこともあることを学ぶ。

いろいろなものが じょうりゅう  
から流れてきたようす  
なが  
がわかります。



はし ようす  
橋がとちゅうでおちてしまった様子



# もっと知ろう

## おおあめ 大雨ってどんなとき？

台風が近づいているときに、テレビなどで「明日は猛烈な雨になるおそれがあります。外出はひかえましょう。」というアナウンスを聞いたことはありませんか。テレビなどでの雨の表し方は、下の表の通りに決まっています。

また、「1時間雨量●mmの雨」とは、「1時間で●mmの深さで雨がたまること」を示します。50mmをこえると非常に危険です。

1時間雨量 (mm)	予報用語 (人のうけるイメージ)	人への影響	屋内	屋外	車に乗っていると
10~20	やや強い雨 (ザーザーとふる)	地面からはね返りで足元がぬれる 	雨の音で話し声がよく聞き取れない 	地面一面に水たまりができる 	
20~30	強い雨 (どしゃぶり)	かさをさしていてもぬれる 			ワイパーをはやく動かしても見づらい 
30~50	はげしい雨 (バケツをひっくりかえしたようにふる)		寝ている人のおよそ半数が雨に気づく 	道路が川のようになる 	スピードをあげているとブレーキがかかりにくい 
50~80	ひじょうにはげしい雨 (滝のようにふる)	かさがまったく役に立たなくなる 		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる 	車の運転は危険 
80~	もうれつな雨 (息苦しさ、恐怖を感じる)				

(気象庁提供)

## (2) すいがいじ きけん 水害時におこる危険

にほんぜんこく すいがい 日本全国では、毎年のように水害がおこっています。水害がおこると、下の写真のようにさまざまな被害を受けます。

すいがい じょうきょう 水害がおこるとどのような状況になるのかな。  
した しゃしん み そうぞう 下の写真を見ながら想像してみましよう。



水害時に起こる危険を考えることで、その後の授業において「わたしたちがとるべき行動」を考える際の土台をつくる。



川に流れる濁った水が押し寄せる。

ていぼう 堤防がこわれる



どうろ 道路がこわれる



かわ みず 川から水があふれる



いえ 家がこわれる

堤防は壊れていないが、堤防を越えて水があふれることもある。

川沿いでは、流れる水のはたらき（侵食）で、家の土台が削られ家屋倒壊の恐れがある。

## 考えてみよう

次のページも見てね

写真のような被害を受けると、どのような危険があるのでしょうか。

こんなときはどうなるかな？



- ・家からひなん場所へ歩いて行きたい。
- ・近所に住むおばあちゃんといっしょにひなんしたい。
- ・車に乗って買い物へ行きたい。

水害が起こった時にとるべき行動を考えることができるように、「水害がおこるとわたしたちはどのような点で困るのか」を想像できるようにする。



山がくずれて、道路を通れない

台風のときにテレビで被害のようすを見たことがあるよ。



山がくずれて、家がこわれる  
もしも家の中にいたら怪我をする。  
最悪の場合は死に至る。

わたしたちの身の回りでは、どのような被害を受けたことがあるのかな。



くしだがわりゅういき きんねん へいせい ねん ねん へいせい ねん ねん  
櫛田川流域でも、近年は平成9年（1997年）や平成29年（2017年）な  
どに被害を受けています。

川の増水や流木の影響で落橋している。復旧に時間が必要であり、川の水が引いた後も交通途絶が発生する。



へいせい ねん ねん たいふうだい ごう まつさかし たいへいばし  
平成9年（1997年）台風第9号（松阪市・太平橋）



はし お  
橋が落ちてしまっているね。  
ふだんはどのように利用されているかな。

きけん  
どのような危険があるのかな？  
みんなで考えてみましょう。





ようす  
くだんの様子



おおあめ ふ あと  
大雨が降った後

へいせい ねん (2004年) たいふう 21号 (太平洋橋)

橋を超えそうなほど水が流れている。誤って川に落ちた場合、すぐに流されるおそれがある。





ようす  
ふだんの様子



おおあめ ふ あと  
大雨が降った後

一面水につかっているため、道路の端が見えず、徒歩や車による移動をすると怪我をするおそれがある。

へいせい ねん ねん  
平成29年 (2017年)

たいふう ごう まつさかしにしくろべちょう  
台風21号 (松阪市西黒部町)



へいせい ねん ねん  
平成29年 (2017年)

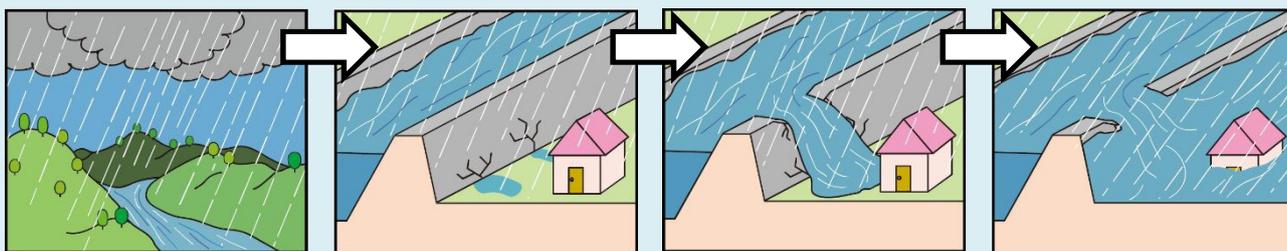
たいふう ごう まつさかしたかすちよう  
台風21号 (松阪市高須町)

## もっと知ろう

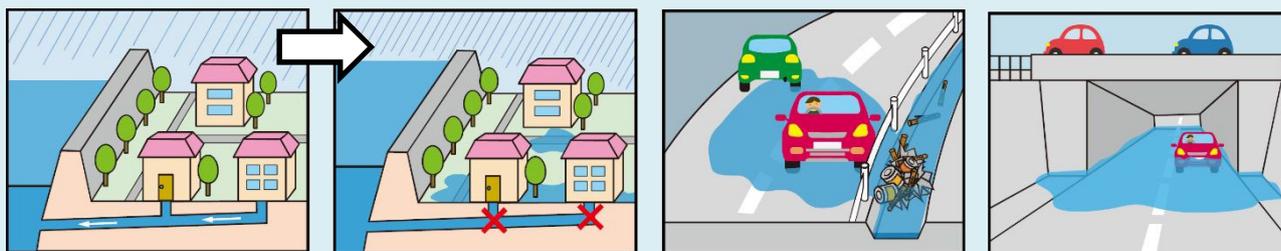
すいがい  
水害ってどうやっておこるの？



かわ なが みず りょう おお  
川を流れる水の量が多くなると、堤防から水があ  
ふれてきたり、堤防がこわれてまちに水が流れてく  
るね。(外水はんらん)



ふだんは、街中にふった雨は、排水溝や下水道を  
とお かわ はいすい  
通って川に排水されます。しかし、おおあめ かわ  
の水の量がふえ、街中の水が排水できなくなってあ  
ふれてしまうことがあります。



かわ かんけい ばしょ はいすいこう  
川とは関係ない場所でも、排水溝にゴミがたまっ  
てしまい道路に水があふれることがあるね。鉄道の  
こうかした どうろ みず てつどう  
高架下などの道路が低くなっているところに雨水が  
たまることもあるよ。(内水はんらん)

## もっと知ろう

### 川の水位の上がり方

雨のふり方や雨のふる場所によって、川の水位の上がり方はさまざまです。ゆっくり川の水位が上がることもあれば、集中豪雨によって水位が急に上がることもあります。

平成20年（2008年）7月、兵庫県神戸市を流れる都賀川では、急な集中豪雨が発生し、10分間で1.34メートルも水位が上がりました。水遊びなどをしていた16人が流され、そのうち5人が犠牲となりました。



10分間  
1.34m ↑



川の水が急にふえることもあるんだね。

雨がふると、いつもより川を流れる水の量がふえたり、流れがはやくなったりするから、川では遊ばないようにしましょう。



# (1) 水害により身に危険があるとき

わたしたちのまちでも、大雨によって身近な場所が水につかったり、山がくずれたりするかもしれません。万が一のときにそなえて、わたしたちの身に危険があるときにすべきことを考えてみましょう。



水害がおこると、さまざまな危険があることを学びましたね。

わたしたちはどのように行動すればいいのかな。



## 考えてみよう

次のページを見てね

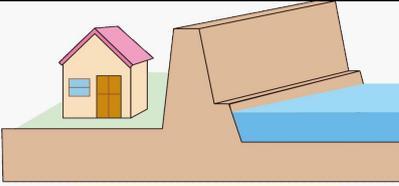
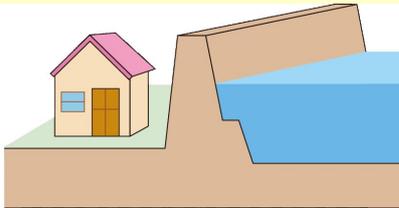
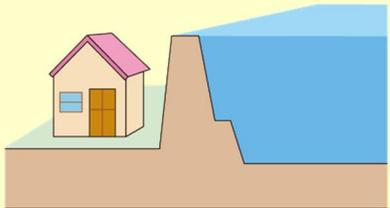
雨が降ってきたときに、まわりの状況はどのように変化するでしょうか。そして、わたしたちにどのような影響があるでしょうか。わたしたちがとるべき行動をを考えてみましょう。

こんなときはどうなるかな？



- ・自分の家にいるときに雨が強くなってきました。
- ・ひな人をしようとしたときには、あたりが水びたしになっていました。

雨が強くなっていくときを想像しながら意見を挙げていくことで、そのあとに考える「わたしたちの行動」について考えやすくする。

<p>あめ 雨のようす</p>	<p>かわ じょうきょう 川の状況</p>	<p>まわりの状況 じょうきょう</p>
	 <p>ふだんのようす</p>	<p>ふだんのようす</p>
 <p>みず 水たまりができる</p>	 <p>ふだんより水の量が ふえている</p>	<p>あめ つよ 雨が強くなる</p>
 <p>かさ 傘をさしてもぬれる</p>	 <p>水面が堤防に近づいている</p>	 <p>どうろ 道路など一部浸水する</p>
 <p>みず 水しぶきであたり一面が しろ 白っぽくなる</p>	 <p>みず 水があふれそう または、あふれる</p>	 <p>ていぼう 堤防から水があふれだす</p>
<p>みず 水しぶきであたり一面が しろ 白っぽくなる</p>	 <p>ていぼう 堤防がこわれる</p>	 <p>ていぼう 堤防がこわれる</p>

えいきょう  
あなたへの影響

こうどう  
とるべき行動



そと で 外に出かけるのが危なくなる



すいる み マンホール、水路などが見えない



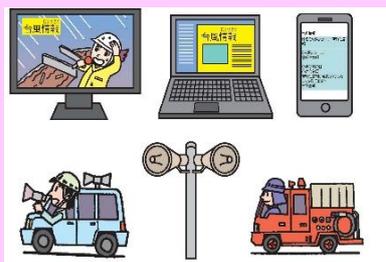
おぼれたり  
なが 流されたりする



ひら ドアが開かず  
そと で 外に出られない



しんすい みうご と  
まちが浸水して身動きが取れない



じゅんび  
ひなんの準備をする



に 逃げられなくなる前に  
まえ  
あんぜん ばしょ  
安全な場所へ

ひなんする

なが 流されないように

たか あんぜん  
高く安全な

ばしょ いどう  
場所へ移動する



避難が遅れた場合、または、避難した場所に水が押し寄せてきた場合は、高く安全な場所へ移動する。

(2) 知っておくべきこと



わたしたちの身の回りが危険な状況になる前に、早めに安全な場所へひなんすることが大切であることを学びました。

水害がおこったときに、わたしたちの身の回りはどのような状況になるのかな。



自然災害が発生したときに、どこでどのような災害がおこるかを予測して、地図上に危険な地域やひなん場所・ひなん経路などを示したものを「ハザードマップ」といいます。自然災害は、地震、津波、土砂災害、水害などさまざまですが、それぞれの災害についてハザードマップがつくられています。



ハザードマップを見てわたしたちの家や学校の周りの状況を確認してみよう。



## 考えてみよう

ハザードマップを見ながら、身の回りの危険を確認しましょう。

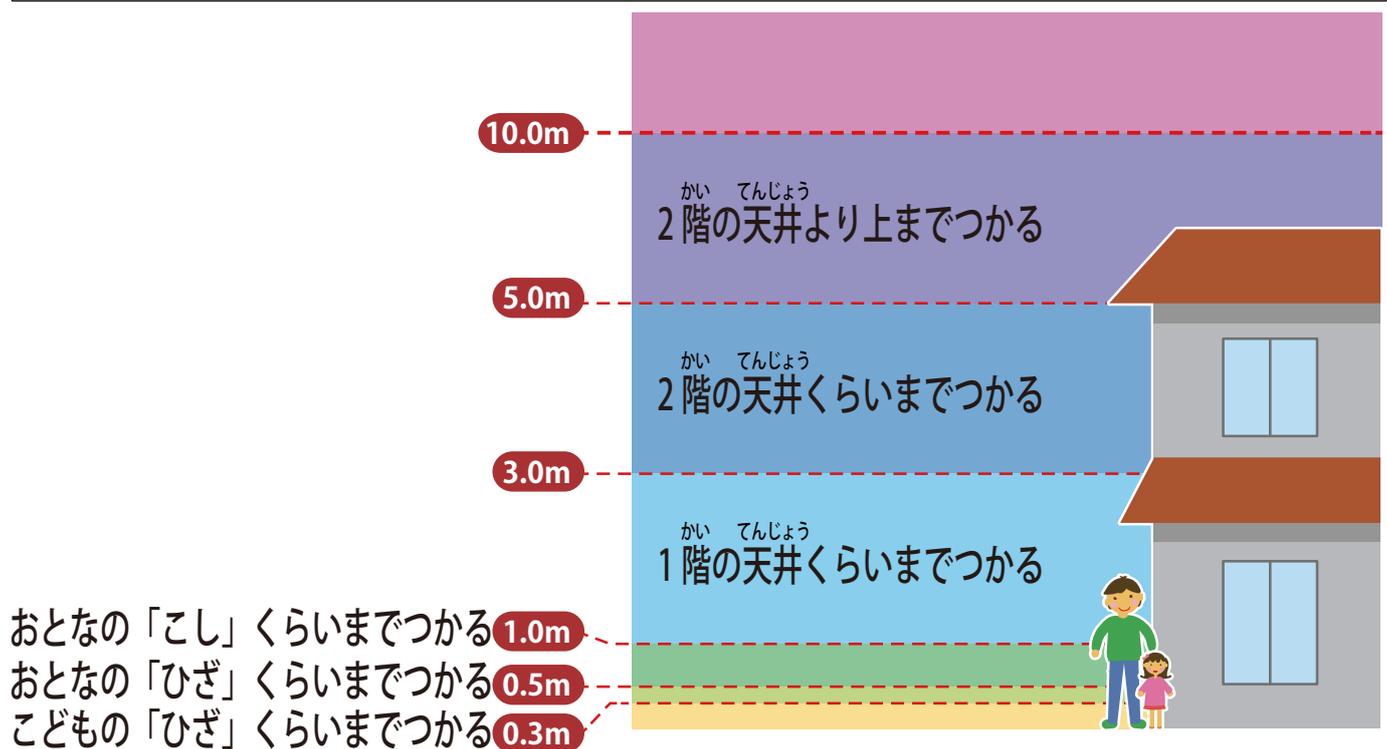
### 【手順】

班ごとに机を一つにして、大判のハザードマップを見ながら  
下記の手順に沿って、身の回りの危険を確認する。  
★授業用プリントあり      ★宿題用ワークシートあり

① 学校（自宅）の位置に印を入れましょう。

② 学校（自宅）は、水につかりますか？

③ 水につかる場合、どのくらいの高さまでつかりますか？



どのくらいの高さまで水につかるおそれがあるのかは、地図にぬられた色から読みとることができるよ。

④ 学校（自宅）は、建物がたおれるおそれがある地域に入っていますか？

した ひょう み かくにん  
下の表を見て確認してみよう。



説明 せつめい	かわ みず 川からあふれた水のいきおいで、 たてももの なが ばしよ 建物が流されるおそれがある場所	たてももの どだいぶぶん 建物の土台部分がけずられて、 たてももの ばしよ 建物がたおれるおそれがある場所
しるし		
例 れい	 平成30年（2018年）7月豪雨 愛媛県大洲市東大洲	 平成23年（2011年）台風12号 三重県熊野市井戸町

⑤ 学校（自宅）は安全ですか？

⑥ ひなんのため、学校（自宅）の周りの安全な場所をさがしてみよう。

ちか ばしよ  
・ 近くのひなん場所はどこにあるかな？

ばしよ たか あんぜん ばしよ  
・ ひなん場所のほかに、高く安全な場所

みず ばしよ  
(水につからない場所) はあるかな？

してい ばしよ  
指定ひなん場所のマーク(例)



※「松阪市洪水ハザードマップ」では、  
数字の場所(1)がひなん場所です。



きょう 今日かくにんしたことは、おうちの<sup>ひと</sup>人にも  
おし 教えてあげてね。

早めの避難の重要性を、授業のまとめとして伝える。

きょう 今日かくにんした「<sup>みず</sup>水につかる<sup>ちいき</sup>地域」は、「<sup>あめ</sup>雨がふったときに<sup>かなら</sup>必ず<sup>みず</sup>水につかる<sup>ばしょ</sup>場所」というわけではありません。しかし、「このあたりまで<sup>みず</sup>水につかるかもしれない」と<sup>かんが</sup>考えて、<sup>みず</sup>水につかって<sup>うご</sup>動くことができなくなる前に、<sup>まえ</sup>早めに<sup>はや</sup>安全な<sup>あんぜん</sup>場所へ<sup>ばしょ</sup>ひなんすることが大切です。

## もっと知ろう

### ひなんについての<sup>じょうほう</sup>情報

さいがい 災害がおこったとき、<sup>かくしちょうそんちょう</sup>各市町村長は<sup>じゅうみん</sup>住民にひなんを呼びかける「<sup>じょうほう</sup>ひなん情報」を<sup>はつれい</sup>発令します。意味を知っておき、ひなんをする<sup>めやす</sup>目安としましょう。

#### けいかい 警戒レベル3

こうれいしゃとう 高齢者等ひなん

ひなんをする<sup>じゅんび</sup>準備をしましょう。<sup>こうれいしゃ</sup>高齢者の方などひなんに<sup>じかん</sup>時間がかかる人は、ひなん<sup>かいし</sup>を開始しましょう。

#### けいかい 警戒レベル4

しじ ひなん指示

すぐに、<sup>ぜんいん</sup>全員、ひなんを開始しましょう。  
<sup>いどう</sup>移動が<sup>きけん</sup>危険な場合は、<sup>たか</sup>高い<sup>ばしょ</sup>場所にひなんしましょう。

#### けいかい 警戒レベル5

きんきゅうあんぜんかくほ 緊急安全確保

さいがい 災害が発生しています。<sup>いのち</sup>じぶんの命を守るための<sup>こうどう</sup>行動をしましょう。

(1) 水害で困らない工夫

くしだがわ 水害による被害をおさえるために、さまざまとりくみ  
 が行われています。



まいとし 台風は起こっているのに、くしだがわ 周り  
 では大きな被害は出ていないね。

考えてみよう

水害で困らないため、川は普段から管理されていることを知る。取り組みは1つでは無く、いろいろな取り組みがあることを知る。

水害による被害をおさえるために、どのようなとりくみが行われているでしょうか。



考えるポイント

- 川から水があふれないようにするには？
- 大雨がふったとき、身の回りでどのようなことが行われているかな？



くしだがわ 水があふれないように、土などを盛りあげて、堤防をつくっています。



かわ そこ じょうりゅう なが  
川の底には、上流から流  
れてきた砂や泥がたまって  
いきます。そのため、川の底  
をほって、流れる水の量を  
多くしています。

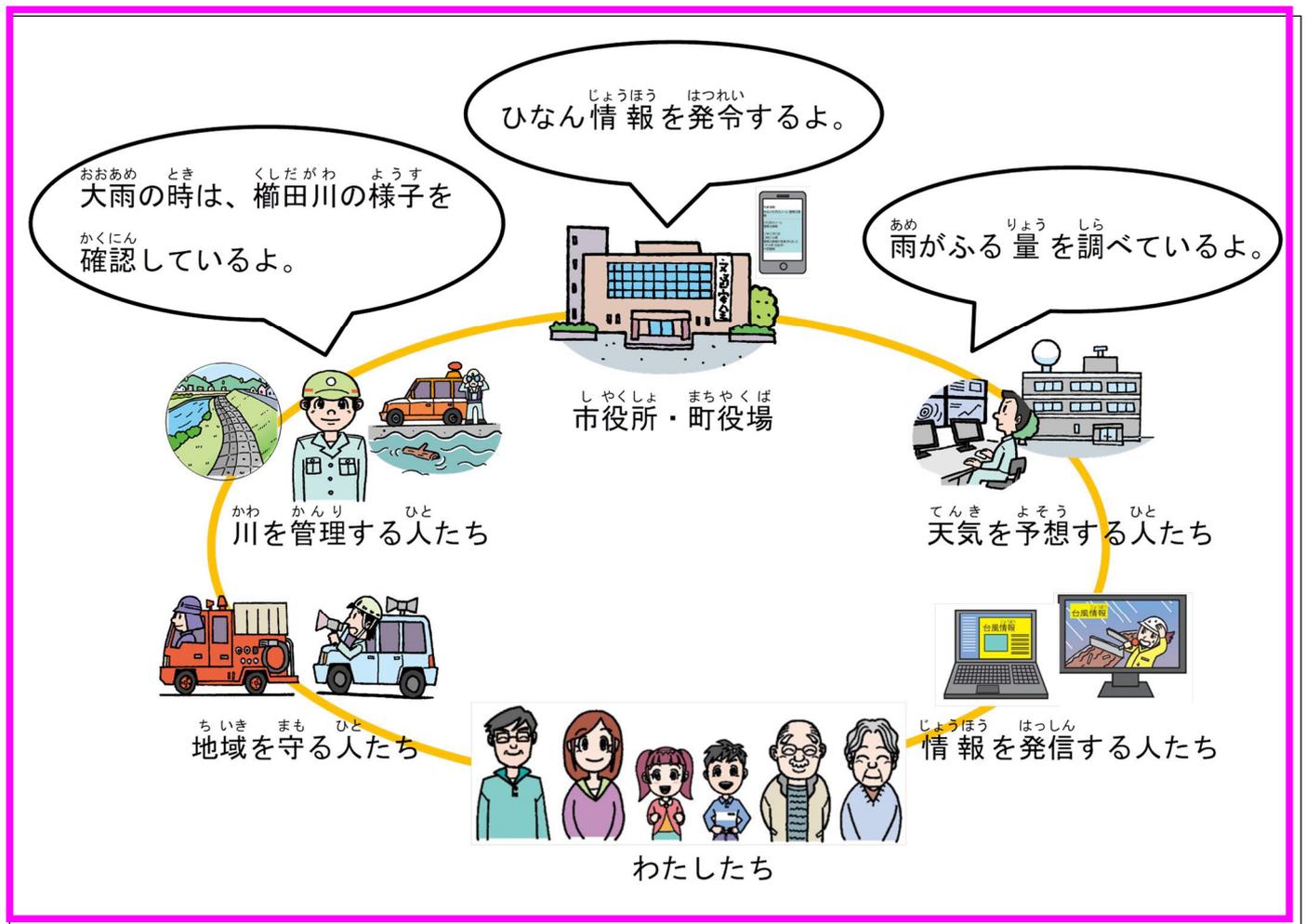
じょうりゅう みず  
上流では、ダムに水を  
ためて、たくさんの水が川  
に流れないように調節し  
ています。



ていきてき ていぼう  
また、定期的に堤防や  
河川の施設が安全か点検を  
しています。万が一にそな  
えて、水防訓練も行ってい  
ます。

このように、川はふだんから安全に管理されています。

また、大雨のときには、川を管理する人たち、天気を予想する人たち、ひなん情報を発令する市役所・町役場、さまざまな情報を発信する人たち、そして、わたしたち一人一人が関わりあっています。役割はさまざまですが、大雨による被害が少なくなるように、一人一人が「自分のいのちを守る」行動をとることが大切です。



水害で困らないため、わたしたちの周りで、いろいろな人たちが関わりあっていることを学ぶ。  
 たくさんの方が、災害にそなえるためにはたらいっているんだね。

## (2) 地域の人、家族との助け合い

大雨のときは、天気のようにすやひなんの情報など、さまざまな情報がわたしたちのもとにとどきます。それらの情報や周りのようすを確認して、ひなんが必要なときは家族や地域の人たちと助け合っぴひなんしましょう。もしも、家族と別々の場所にいるときに災害がおきたとしたら、まずは「自分のいのちを守る」行動をとりましょう。

もしものときにそなえて、持ち出し品やひなんをした後に集まる場所を家族で話し合っぴ決めておきましょう。

もしもの時に備えて、家族と事前に決めておくべきことを学ぶ。



### あらかじめ家族と決めておこう

持ち出し品

ひなん先

ひなんをした後に集まる場所

(家族が別々の場所にいるとき)

ひなんをするときに注意する場所

高齢者の方や、幼い子どもは、一人で避難することが困難な災害弱者であることを学ぶ。また、そのような人が、身近な地域にいる場合は、避難の手助けが必要であることを学ぶ。



高齢者の方や幼い子どもなど、一人で

でひなんをすることがむずかしい人が

いれば、周りの人とっしよにひなん

の手助けをしましょう。

もっと知ろう

も だ ひん じゅんび  
持ち出し品の準備

ひなん所に準備されているものには、数に限りがあります。もしものときにそなえて、自ら準備しておく<sup>あんしん</sup>と安心です。両手の空くリュックサックに<sup>も だ ひん じゅんび</sup>持ち出し品を準備しておきましょう。



も だ ひん  
持ち出し品

携帯ラジオ

懐中電灯

電池

非常食

水

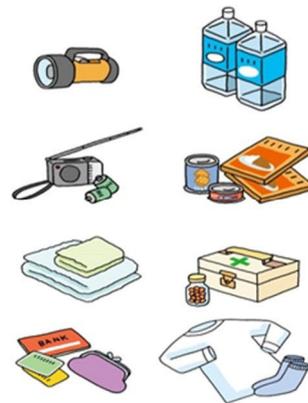
救急医薬品

雨具

現金・貴重品

衣服

ろうそく（マッチ、ライターなど）



もっと知ろう

ひなんするときに注意すること

さんこう  
参考：21 ページ

大雨によって、身の回りが危険な状態になることが予想される<sup>よそう</sup>ときは、早め<sup>はや</sup>に安全な場所<sup>ばしょ</sup>へひなんしましょう。

移動が危険な場合は、高く<sup>たか</sup>て安全な場所<sup>ばしょ</sup>にひなんしましょう。もしも水の中を移動する<sup>みず なか いどう</sup>場合<sup>ばあい</sup>があれば、棒<sup>ぼう</sup>で足元<sup>あしもと</sup>を確認<sup>かくにん</sup>しながら進<sup>すす</sup>みましょう。



この本では、<sup>ほん</sup>櫛田川のまわりの<sup>すいがい</sup>水害について<sup>まな</sup>学びましたが、ひっこしを  
 したり、<sup>そと</sup>外に出かけたりして、<sup>ほか</sup>他の川の<sup>ちか</sup>近くにいるときもあるでしょう。  
<sup>すいがい</sup>水害だけではなく、<sup>しぜんさいがい</sup>そのほかの自然災害がおこることもあります。そのよ  
 うなときも、<sup>まわ</sup>あせらずに<sup>ひと</sup>周りの人と<sup>たす</sup>助け合っ<sup>あ</sup>て、「<sup>じぶん</sup>自分のいのちを<sup>まも</sup>守る」  
<sup>こうどう</sup>行動をとるようにしましょう。<sup>ひとりひとり</sup>一人一人の<sup>ひ</sup>日ごろの<sup>こころ</sup>心がけが「もしもの  
 とき<sup>あんぜん</sup>のみんなの安全」をつくれます。

水害が起こったときに、「行動」することの大切さを最後にもう一度伝える。



<sup>すいがい</sup>ぼくたちのまちの水害について、いろいろ  
 なことを<sup>まな</sup>学んだね。

将来、万が一、身の回りで水害が起こったとしても、  
 今回学んだことを思い出して、焦らずに行動してほしいことを伝える。

<sup>たいふう</sup>台風や<sup>おおあめ</sup>大雨のときは、<sup>こんかいまな</sup>今回学んだことをいかして、  
<sup>じぶん</sup>自分のいのちを<sup>まも</sup>守る<sup>こうどう</sup>行動ができると思うわ。



<sup>かわ</sup>川は<sup>とき</sup>時に<sup>きけん</sup>危険な<sup>ばしょ</sup>場所にもなるけれど、<sup>い</sup>ふだん  
 は<sup>かんさつ</sup>生きものを<sup>かわあそ</sup>観察したり、<sup>みんな</sup>みんなで川遊びを  
 したり、<sup>いろいろな</sup>いろいろなことができる<sup>ばしょ</sup>場所です。  
<sup>おおあめ</sup>大雨がふった<sup>ちゅういてん</sup>ときの<sup>し</sup>注意点を知ったうえで、  
<sup>しぜん</sup>自然とともに<sup>い</sup>生きていきましょう。

川に対して「恐怖」の感情が残らないように、  
 1章の内容をおさらいしながら、川には良い所がたくさんあることを伝える。



# ワークシート

## 3 水害時にわたしたちがとるべき行動

### うら面にはりつける「とるべき行動」シート

○点線で切り取って使いましょう。必要なものを自由に使ってね。

宿題用ワークシート裏面には、下記のイラストまたは文章を切り取って貼り付けるよう児童に伝えて下さい。必要なものだけを使用してください。



あんぜん ばしょ  
安全な場所へひなんする  
(場所: )



み  
ハザードマップを見て、  
いえ がっこう まわ  
家や学校の周りの  
じょうきょう かくにん  
状況を確認する



なが たか  
流されないように高く  
あんぜ ばしょ いどう  
安全な場所へ移動する



も だ ひん じゆんひ  
持ち出し品を準備する



じょうほう かくにん  
ひなん情報を確認する

さき  
ひなん先やひなんルート  
かくにん  
をあらためて確認する

れんらく  
おじいちゃん  
おばあちゃん に連絡する

み  
ハザードマップを見ると  
じたく あんぜん  
自宅は安全であるため  
じたく たいぎ  
自宅で待機する

れんらく  
( ) に連絡する

かんりよう  
ひなんを完了する



児童の自宅がどこにあるか、避難先や親戚等の家がどこにあるかによって避難行動パターンは異なります。上記に挙げた避難行動以外に必要な行動があれば、点線枠のみ用意した白紙シートを活用してください。

